

わびごうってたからもの？

3年 S・Uくん

「ほくはガルドのこと見えないだろうな」読み終えてそう思った。友達と話したり遊ぶのが大好きで、初めての所に行っても、友達を作るのが得意な方だし、いつも家族が側にいてくれる。それに大切な誰かがいなくなったり、会えなくなったりという経験もまだない。だからさびしいってどんな事なのか想像してみることにした。そういえばこのあいだ、「人って何才くらいつまで生きられるの？」と何気なくお母さんに聞いたら、日本人女性の平均寿命は八十七才くらいと教えてくれた。世界の中では長い方らしいけど、お母さんが、「おばあちゃんもあと二十年で八十七才かぁ」とポツリと言った。何だかその声と顔がとってもさびしそうだなと思った。もちろんずっとずっとおばあちゃんには元気でいてほしいけれど、永遠ってことはないし、どんな人でもいつかは死んでしまう。ほくには大切な人がたくさんいるので考えただけで、胸のあたりがギュッと痛くなった。想像しただけでこうなのに、実際そうならどうなってしまふんだろうとこわくになった。だけどそれともしかしたら、そんなにも大切に思える人がいるってことは幸せなことでもあるのかなと思った。だってガルドは正真正正の一人ぼっちだったから。誰のことも好きじゃない上に、誰からも好かれないで一人ぼっちで誰にも知られずに死んでいった。何てかわいそうでさびしい人生だったんだろう。ガルドは最初その事を話してくれなかったけど、ヒナちゃんアヤカちゃんと仲良くなるにつれて、自分のさびしさ、後かいを思いきって二人になら話せる、聞いてほしいと思って打ち明けたのかな。そして二人が涙をポロポロ流してくれたり、大好きと言ってくれて、きつとやっとなさびしさとさよならできたのだと思う。さいごにガルドとは会えなくなったことは、ほくは、やっぱりさびしいと思うけど、心の中で思い出したり話しかけたりすることでも、でもひとりじゃないって不思議と温かい気持ちがいってくる気もする。ほくもいつの日か経験するだろうってつともなく悲しい出来事も、悲しさをさびしさをただでなく、「だからもの」で「だごご」って思える日が来るというのを思う。